

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0491300042		
法人名	社会福祉法人 豊明会		
事業所名	グループホーム 桂葉 ユニット:蔵王		
所在地	宮城県栗原市高清水新桂葉278-2		
自己評価作成日	平成28年12月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成29年1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社会福祉法人豊明会は、特別養護老人ホーム若藤園、特別養護老人ホーム桂葉や障害者施設等多数の事業所の運営しております。グループホーム桂葉は高清水地区を中心とした、住み慣れた地域の中で暮らせる環境を大切にしております。グループホーム桂葉の運営理念「私達は、アットホームな環境を整えるため、地域の皆様方と共に楽しい時間を過ごしながら、暖かい環境創りを目指します。」を基に職員一同心掛けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

部屋から季節の移り変わりを眺めながら過ごすことのできる明るいホームは、敷地内に法人の経営する特養ホームや障害者施設があり、行事や医療面など連携した取組がなされている。事業所のニュース「きずな」を年4回、地域全戸に配布、市の広報誌を月2回区長が届けるなど地域交流が進んでいる。運営推進会議で出された意見の実現に取り組み、きめ細かな水害対策マニュアルを作成し、職員で確認している。また、職員はチームワークを良くするよう努め、利用者が家庭的な暮らしができるように協力し支援している。月1回のスタッフ会議、ユニット会議、年2回の管理者との職員面談などで職員が運営に関する意見や要望を出しやすい体制作りに取り組み、職員の意見が運営に活かされてきている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 GH桂葉 ）「ユニット名 蔵王」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所での経営理念を職員一人一人が意識して実践に繋げていけるように努めている。	理念は、「地域交流や家族のような支援をめざす」としており、事務所に掲示し職員は常に確認している。新人研修で理念を説明し、年度初めの会議で再確認している。事業所のニュースを全戸配布するなど地域交流に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	豊明会の夏祭りに地域の方々も参加頂いたり、高清水地域の敬老会、運動会、生涯学習まつりにも参加し交流はできている。これからも、地域の皆様方と沢山交流していくように努めていく。	区長が月2回広報を届けている。事業所のニュース「きずな」を年4回全戸に配布している。地域の文化祭を見学したり、ゲートボール見学の案内がある。ボランティアの訪問があり、利用者は歌や踊りを楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座やキャラバンメイトの養成講座を修了している職員もおり、地域の方への理解や支援を地域包括センターの方々と共に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、取り組み等の報告をしている。会議では出された意見等については参考にさせて頂き、サービスに活かすように努力している。	市職員、地域包括職員、区長、民生委員の参加で年6回開催している。防犯対策の強化について意見があり、夜間見まわりの回数を増やしたり、居室の窓を2重ロックにした。水害対策マニュアルも強化した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市職員にも、運営推進会議に毎回参加して頂いていると共に、連絡事項等発生した場合には速やかに連絡調整行っている。	県や地域主催の研修の案内があり参加している。利用者の住所変更の手続きや制度利用についての連携を取っている。目標達成計画や外部評価についても報告し事業所の運営に理解を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修や身体拘束についての話し合いを持ち、身体拘束について全職員が内容を理解するように取り組んでいる。ご利用者様並びにご家族様に対しては、説明をし身体拘束への弊害について理解していただいている。	マニュアル確認などの内部研修をして、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。19時から朝7時まで施錠している。玄関にセンサーをつけて外出の際には職員が同行し自由に過ごせるようになっている。近隣住民の見守りについても町内会に依頼している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についても、内部研修等で内容の理解を図っている。日常生活での関わりの中で虐待等が起きないように職員全体が研修で学んだ事を意識し十分に注意して介助に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加した職員より、内部研修にて伝達を行い、内容の理解ができるように努めている。今後も外部研修においては積極的に参加できるように努めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等の際には十分な説明を行っている。更に不安や疑問がないか確認し理解・納得していただける様努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加を通し、意見や思いを話す機会を設けている。また、面会に来られた際にも意見や要望を伺い、サービスの向上に努めている。	年1回満足度アンケートを実施している。第三者委員を委嘱しており、家族の面会時などにも直接要望を聞いている。ホールに手すりを付けてほしいなどの要望が出ている。職員に何でも相談して欲しいと家族に伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議やユニット会議を毎月開催し、意見や思いを提案しやすい環境を整えている。日頃から、職員間で話し合い、実践するか否か検討しサービスの向上に努めている。	月1回のスタッフ会議、ユニット会議を開催している。食事係等係りの立場としての意見、利用者担当としての意見など出しやすい機会を作っている。年2回パーソナルレポートをもとに管理者との面談の機会もある。	利用者の支援が更に豊かになるように、職員から提案された様々の課題を実現するための取組を系統的にする。このために適切に記録し、検討を重ねることを全職員で取り組むことを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の職員面談により、職員個々の努力や勤務状況を把握し、職場の環境条件向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	理事長は、管理者や職員の経験・能力に応じて、研修等の機会を計画し、職員の育成を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連医療法人の事業所との連携会議に参加するなど、情報の共有を図っている。また、外部研修に参加した際は、同業者との意見を交わし職員間での情報共有やケアの実践に繋げる事が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人様の意向の確認や家族様からの状況を確認し、入居後も出来る限り不安が解消されるように環境整備、話しやすく、安心して頂けるような雰囲気、声掛けを行うよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に対する不安や質問があった際は家族様が納得できるよう説明する機会を設けることができている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を重ねながら、本人様や家族様の思い、状況等を確認し、本人様に合ったサービスを受けることが出来る方法を考えている。また、他のサービス機関への連絡調整についても行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の能力を見極め、日々の役割を持ち、出来ることの喜びを感じることが出来る環境作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活の様子を面会時や電話連絡で伝えている。家族様の協力が必要とする際は、どのように協力して頂きたいか説明をし協力が得られている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様の協力を得て、定期的に外出しており、自宅に帰れば近所付き合いも出来ており関係が途切れない継続した支援が出来ている。地域の敬老会や、慰問、神社のお祭りにも参加をしている。	家族と共に自宅に帰り近所との交流をしている。友人・知人の来所があり、馴染みの人との交流をしている。地域のスーパーへの買い物に職員と出かけている。開所以来の理容師の訪問が、定期的にあり馴染みの関係になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が出来るだけ、ご利用者同士が共に過ごせる環境作りをすることで、孤立しないよう努めている。また、ご利用者の意向を聞きながら楽しく関わられるよう対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談に応じ対応している。他施設や病院へ移る必要がある場合でも、十分な説明をし事前に情報提供も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の動作や日常会話の中から意向や希望を引き出せるように努めている。更に家族様の意見を聞き、本人の意向に沿った対応を行っている。	職員は利用者2人を担当し、日常の会話や支援を通して意向の把握に努めている。また、家族からの情報や、利用者の表情や行動を通して思いを汲み取っている。また、利用者同志のコミュニケーションがスムーズにいくよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の聞き取りの情報を基に、入所後ご家族、親せき等の面会時に話を伺い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人一人の状態や出来る事を把握している。カンファレンス等において、職員と話し合い役割、有する力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6ヶ月に1回、モニタリングを実施し、利用者様の希望や必要である事を確認している。又、家族の思いも含め、現状に即した介護計画の作成をしケアしている。	利用者、家族、協力医やかかりつけ医、法人の看護師や栄養士の意見のもと、介護計画を年2回見直している。家族の要望で週2回マッサージ師の訪問利用をしている利用者もいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子等個人のケース記録、共同生活日誌へ記録している。職員間で情報を共有しながら実践や介護計画に活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれる一人一人のニーズに対応するだけ対応し、状況に合わせた支援が出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の広報誌や地域の方々に情報を頂き、出来る限り活用できるようにしている。又、地域の消防と連携し、年2回の避難訓練を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療担当が中心となり、協力医療機関のかかりつけ医の回診を週1回受け、状態の報告をしている。又、利用者様の体調不良時や急変等24時間体制で連絡、指示を頂き対応することが出来ている。	協力医がかかりつけ医の利用者は週1回の検診を受けている。これ以外のかかりつけ医や、専門医の受診は、家族の付添いを基本にしている。職員の同行の際でも受診結果の情報を共有し日々の支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接している特養の看護師の協力を得たり、又協力医への相談等連携を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が協力し、医療機関、医師との相談を行い早急に対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期においての説明については、協力医のDrと連携し行っている。	看護師は常駐していないので看取りはしていない。法人の関連施設などへの連携が取れることなどその都度説明している。必要に応じ協力医と連携し指示を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時に備えて応急処置の対応を行えるようマニュアルを備え付け、職員が確認できるようにしている。又、救命講習を受講し、実践的な対応ができるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルを作成し、職員一人一人が確認できるようにしている。又、災害時は同敷地内の特養に協力要請を行っている。	年2回夜間想定を含めて避難訓練をしている。訓練の日程を地域に案内し、協力を求めている。防災設備の点検は業者が年2回実施し、職員も使用方法を確認している。風水害のマニュアルを充実させた。備蓄は1週間分ある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様のプライバシーに配慮し、言葉遣い、態度に十分気を付けて接している。	接遇やプライバシー保護の内部研修を行い特に言葉遣いに気を配り、方言も適度に入れて親しみを持った支援をしている。呼び名は〇〇さんと呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いや、希望を表せるような環境作りをするよう努めている。自ら選択できるような場面を作れるよう配慮し働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様、一人一人に合った生活のペースに合わせた対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時にその人らしい身だしなみが出来ている。又、外出時や行事の際は職員と衣類を選んだりおしゃれが出来よう支援できている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事の準備や片づけを行っている。食事が楽しみになる様、誕生日や行事食等嗜好を確認し献立に活かしている。	職員がメニューを作り、利用者と一緒に調理している。必要に応じ法人の栄養士に助言を求めている。利用者は、ご飯をよそったり後片付けを一緒にしている。回転すしなど外食も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が献立を作成している。管理栄養士に助言を頂きながら栄養の取れたバランスの良い食事提供を行っている。又、利用者様の状態に合わせて量を調節したり代替品を提供したり、嚥下状態に合わせて食事の提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは出来る限り自力で行えるよう声掛け、見守りしている。出来ないところを支援するようにしている。又、口腔状態の確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に記録を残し、排泄パターンを把握することが出来ている。利用者様の残存機能を活かし見守りし、出来ない部分を支援している。	排泄パターンを把握し、トイレへの誘導、声掛けなどを行いトイレでの排泄支援をしている。夜も声掛けなど工夫しトイレへの誘導をしている。便秘対策としてマッサージや、乳製品をとり入れた食事の工夫などしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表の記入にて排便確認も行っている。腹部マッサージや朝のトイレ誘導にて排便確認している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限り、利用者様の希望に沿って入浴を実施している。入浴拒否のある利用者様に関しては時間をずらしたり職員を代えて声掛けし入って入って頂けるよう環境を整えている。	入浴は週2回を基本にして、希望に合わせての入浴もできるように支援している。入浴拒否の方にはその日の気分に合わせて声掛けや、タイミングに配慮して心地よい入浴ができるように支援している。同性介助にも取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人一人の生活のリズムを整え、日中の活動量等把握を行い、休息し安心して寝れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服管理は職員が行っている。名前と日付を確認し提供し、飲み終えるまで確認している。又、用法や用量についても理解できている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様が役割や日課、趣味活動を楽しく行えるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候、体調面に考慮しながら近所への散歩、外出の計画をし出かけている。	年間計画をもとに、担当職員が実施計画を立て花見や紅葉見物など季節の外出を楽しんでいる。近所の散歩、買い物、外食にも出かけている。利用者の希望に合わせて、誕生日の外食にも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外食や外出時の支払いはご本人の目の前だったり利用者様が支払いできるように配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話希望があった際はその都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットホール内は季節感が感じられるような装飾等で対応している。生活感をだし居心地よく過ごせるよう配慮している。	玄関に担当職員の写真が貼られており家族にも分かりやすい。加湿器の設置などで湿・温度が心地よく管理されている。畳の小上がりや、ソファが置かれ寛げる空間になっている。トイレや大きい日めくりなど表示が分かりやすい。台所が真ん中にあり家庭的な暮らしがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール、和室にソファを置いており、景色をみたり落ち着いて過ごせるよう配慮している。ホールにテレビを置き気の合う利用者様同士過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅での愛用品をもってきて頂き使用し居心地よく生活できるよう配慮している。	可動式ベッド、クローゼット、大きい時計が備え付けてあり湿・温度が心地よく管理されている。部屋は明るく、掃き出し窓から季節の移り変わりを眺められる。人形や馴染みの家具など持ち込み、その人らしい暮らしがうかがえる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様に合わせ、家具、家電の配置を行っている。安全な環境配備に努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0491300042		
法人名	社会福祉法人 豊明会		
事業所名	グループホーム 桂葉 ユニット:栗駒		
所在地	宮城県栗原市高清水新桂葉278-2		
自己評価作成日	平成28年12月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成29年1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社会福祉法人豊明会は、特別養護老人ホーム若藤園、特別養護老人ホーム桂葉や障害者施設等多数の事業所の運営をしております。グループホーム桂葉は高清水地区を中心とした、住み慣れた地域の中で暮らせる環境を大切にしております。グループホーム桂葉の運営理念「私達は、アットホームな環境を整えるため、地域の皆様方と共に楽しい時間を過ごしなが、暖かい環境創りを目指します。」を基に職員一同心掛けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

部屋から季節の移り変わりを眺めながら過ごすことのできる明るいホームは、敷地内に法人の経営する特養ホームや障害者施設があり、行事や医療面など連携した取組がなされている。事業所のニュース「きずな」を年4回、地域全戸に配布、市の広報誌を月2回区長が届けるなど地域交流が進んでいる。運営推進会議で出された意見の実現に取り組み、きめ細かな水害対策マニュアルを作成し、職員で確認している。また、職員はチームワークを良くするよう努め、利用者が家庭的な暮らしができるように協力し支援している。月1回のスタッフ会議、ユニット会議、年2回の管理者との職員面談などで職員が運営に関する意見や要望を出しやすい体制作りに取り組み、職員の意見が運営に生かされてきている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 GH桂葉 ）「ユニット名 栗駒」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所にグループホーム桂葉の基本理念を掲示している。理念とは何かを確認しながら実践できる様にしている。	理念は、「地域交流や家族のような支援をめざす」としており、事務所に掲示し職員は常に確認している。新人研修で理念を説明し、年度初めの会議で再確認している。事業所のニュースを全戸配布するなど地域交流に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の文化祭等招待を受け参加している。法人全体で行う夏祭りへの参加も行い、地域の方が参加している為、交流が図れている。	区長が月2回広報を届けている。事業所のニュース「きずな」を年4回全戸に配布している。地域の文化祭を見学したり、ゲートボール見学の案内がある。ボランティアの訪問があり、利用者は歌や踊りを楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員が、認知症キャラバンメイト養成講座を受け、地域へ講師に行ったり、研修に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議でグループホームでの取り組み等報告をしている。会議の中で、家族からの要望を聞き取り入れ向上に努めている。	市職員、地域包括職員、区長、民生委員の参加で年6回開催している。防犯対策の強化について意見があり、夜間見まわりの回数を増やしたり、居室の窓を2重ロックにした。水害対策マニュアルも強化した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市職員の方にも運営推進会議に参加して頂いている。又、生活保護を受けている入所者の方が居る為報告等行っている。	県や地域主催の研修の案内があり参加している。利用者の住所変更の手続きや制度利用についての連携を取っている。目標達成計画や外部評価についても報告し事業所の運営に理解を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修の実施、マニュアルの提示を行い、身体拘束のないケアの確認を行い、取り組んでいる。	マニュアル確認などの内部研修をして、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。19時から朝7時まで施錠している。玄関にセンサーをつけて外出の際には職員が同行し自由に過ごせるようになっている。近隣住民の見守りについても町内会に依頼している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて実際にあった内容を基に研修をし解りやすく理解を高めている。日常生活の中で態度、声掛け等気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修時に権利擁護について研修、確認している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、疑問や不安等はないか確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ユニット会議、スタッフ会議を毎月実施しその中で面会時等ご家族の要望があればそれについて話し合い、改善に努めている。	年1回満足度アンケートを実施している。第三者委員を委嘱しており、家族の面会時などにも直接要望を聞いている。ホールに手すりを付けてほしいなどの要望が出ている。職員に何でも相談して欲しいと家族に伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、スタッフ会議を毎月実施しその中で面会時等ご家族の要望があればそれについて話し合い、改善に努めている。	月1回のスタッフ会議、ユニット会議を開催している。食事係等係りの立場としての意見、利用者担当としての意見など出しやすい機会を作っている。年2回パーソナルレポートをもとに管理者との面談の機会もある。	利用者の支援が更に豊かになるように、職員から提案された様々の課題を実現するための取組を系統的にする。このために適切に記録し、検討を重ねることを全職員で取り組むことを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回のパーソナルレポートの提出、面談により、個々の勤務状況や職場環境、仕事内容等話し合う場を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	理事長は、管理者や職員の経験、能力に応じて、外部研修への参加、内部研修の機会を計画実施し育成している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設の連携医療法人の事業所との連絡会議、外部研修を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所相談時、本人、家族が不安な事、要望等耳を傾けている。入所後も、安心して生活して頂けるよう、話を傾聴、確認し何でも相談しやすい関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談時、入所後の面会、電話連絡時にご家族の不安な事、要望に耳を傾け、改善する様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の状況、思いや要望を確認し、その方に合ったサービスを受ける方法を検討し考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に家事の手伝い等行い、生活を共にし関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話連絡時、面会時にグループホームでの生活の様子を伝えている。本人、家族の外出等希望があった際は協力を得る事が出来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの友人とのはがきのやりとりや面会を行っている。これまでの関係が切れない様になっている。	家族と共に自宅に帰り近所との交流をしている。友人・知人の来所があり、馴染みの人との交流をしている。地域のスーパーへの買い物に職員と出かけている。開所以来の理容師の訪問が、定期的により馴染みの関係になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を確認しながら、余暇活動への参加等働きかけ、孤立しない様支え合えるような関係作りを努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用終了後についても相談に応じてこれまでの関係性を大切にしている。他の施設、入院等、移る必要がある際は、自前に情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話から本人の思いや希望を引き出すようにしている。理解力、発言力の低下がある方は表情、行動の中から本人の意向を受け取るようにしている。	職員は利用者2人を担当し、日常の会話や支援を通して意向の把握に努めている。また、家族からの情報や、利用者の表情や行動を通して思いを汲み取っている。また、利用者同志のコミュニケーションがスムーズにいくよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の実態調査で聞き取りを行い、その内容を基に、家族の面会時に話を伺ったり等本人の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中から利用者一人一人の把握に努めている。ユニット会議においても職員と話し合い、暮らしの状況、役割を持って生活できる様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月利用者様について話しや6ヶ月に1回のモニタリングを行い希望、要望を確認している。現状に即した介護計画を作成する様努めている。	利用者、家族、協力医やかかりつけ医、法人の看護師や栄養士の意見のもと、介護計画を年2回見直している。家族の要望で週2回マッサージ師の訪問利用をしている利用者もいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子を個人のケース記録、共同生活日誌に記録している。職員同士で情報共有しケアの実践や介護計画の見直しを行い、生かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々のニーズに合った対応をし、柔軟に対応できる様状況に合わせ支援できる様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の広報誌や、地域の方々の情報を頂き活用する様努めている。又、地域の消防署と連携し年2回の避難訓練を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の回診を週1回実施し健康管理の把握に努めている。利用者様の体調不良、急変時は24時間体制にて指示を頂き対応している。	協力医がかかりつけ医の利用者は週1回の検診を受けている。これ以外のかかりつけ医や、専門医の受診は、家族の付添いを基本にしている。職員の同行の際でも受診結果の情報を共有し日々の支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接している特養の看護師の職員の協力、協力医への相談、体調管理、受診等を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	職員が協力し、医療機関と相談し情報交換等努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や、終末期においての説明は協力医と連携し行っている。	看護師は常駐していないので看取りはしていない。法人の関連施設などへの連携が取れることなどその都度説明している。必要に応じ協力医と連携し指示を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時に備えて、救命講習を受講し実践できる様にしている。又、マニュアルの設置で緊急時の対応が出来るよう把握している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルの設置、内部研修の実施にて職員一人一人が把握、確認できる様にしている。災害時は、近隣の施設に協力要請を行っている。	年2回夜間想定を含めて避難訓練をしている。訓練の日程を地域に案内し、協力を求めている。防災設備の点検は業者が年2回実施し、職員も使用方法を確認している。風水害のマニュアルを充実させた。備蓄は1週間分ある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人のプライバシーに配慮し、人生の先輩として尊厳を重視している。	接遇やプライバシー保護の内部研修を行い特に言葉遣いに気を配り、方言も適度に入れて親しみを持った支援をしている。呼び名は〇〇さんと呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様本人の思いや、希望を出せるような環境作り、自ら選択出来るような場面作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人の生活、自分のペースで過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみに整えている。外出等外に出る時は職員と一緒に衣類を選ぶようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事の準備、片づけを行っている。嗜好の確認を行い、好きなものが食べられるよう支援している。	職員がメニューを作り、利用者と一緒に調理している。必要に応じ法人の栄養士に助言を求めている。利用者は、ご飯をよそったり後片付けを一緒にしている。回転すしなど外食も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事担当が献立作成を行い管理栄養士に相談しながら栄養のバランスが整った食事提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアに努めている。食後、口腔内確認をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表で施設管理を行い、排泄パターンを確認している。その人に合わせてトイレ誘導、パッドの使用を行っている。	排泄パターンを把握し、トイレへの誘導、声掛けなどを行いトイレでの排泄支援をしている。夜も声掛けなど工夫しトイレへの誘導をしている。便秘対策としてマッサージや、乳製品をとり入れた食事の工夫などしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分補給等で便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限り、その方に合わせて入浴を進めている。入浴拒否がある方は声掛け、タイミング等配慮し行っている。	入浴は週2回を基本にして、希望に合わせての入浴もできるように支援している。入浴拒否の方にはその日の気分に合わせて声掛けや、タイミングに配慮して心地よい入浴ができるように支援している。同性介助にも取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活のリズムの確認を行い配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の準備をし把握している。内服時は名前、日付の確認2重確認を行っている。協力医の相談を受け内服している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の役割や趣味活動、楽しみが持てる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節、天候に応じて、出かけられる様支援している。	年間計画をもとに、担当職員が実施計画を立て花見や紅葉見物など季節の外出を楽しんでいる。近所の散歩、買い物、外食にも出かけている。利用者の希望に合わせ、誕生日の外食にも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外食や買い物の際は本人に確認し支払を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への連絡の希望は聞かれていない。友人等はがきのやり取りを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットのホール内に季節を意識した装飾を行っている。又、写真を掲示している。不快なく過ごせるよう支援している。	玄関に担当職員の写真が貼られており家族にも分かりやすい。加湿器の設置などで湿・温度が心地よく管理されている。畳の小上がりや、ソファが置かれ寛げる空間になっている。トイレや大きい日めくりなど表示が分かりやすい。台所が真ん中にあり家庭的な暮らしがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにテレビを置くことで、皆さんで共有し、皆でテレビを見たり、少し横になりたい方は和室にて休まれたりと思い思いに過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時は自宅で使用していた物を持ってきて頂いたり、ご家族に準備して頂き居室の環境整備を行っている。居心地の良い空間になるよう工夫している。	可動式ベッド、クローゼット、大きい時計が備え付けてあり湿・温度が心地よく管理されている。部屋は明るく、掃き出し窓から季節の移り変わりを眺められる。人形や馴染みの家具など持ち込み、その人らしい暮らしがうかがえる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活状況に合わせ、家具、家電の配置を行っている。居室、浴室、トイレの表示を分かりやすく工夫している。		